

令和 5 年度 小林市立野尻中学校 学校関係者評価書

4 段階評価	4 期待以上	3 ほぼ期待どおり	2 やや期待を下回る	1 改善を要する
--------	--------	-----------	------------	----------

学校経営ビジョン	「自立と自律」「感謝」「貢献」をスローガンに、学校・家庭・地域が一体となって 活力ある教育活動を推進することにより、学校教育目標の具化を図り、信頼される学校づくりに努める。
----------	--

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析 (○) 及び改善策等 (◇)	自己 評価	関係者 評価	学校関係者評価のコメント
知 育	<p>重点目標： 授業力の向上と学力の向上。</p> <p>手段： 1 年 1 回の研究授業と相互参観授業の積極的な実施。</p> <p>2 表現力・読解力の育成と ICT 活用の工夫による学力の向上。</p> <p>3 キャリア教育の充実と主体的な学習態度の育成。</p> <p>4 英語検定・漢字検定などの検定取得率向上。</p>	<p>1 について</p> <p>○ 全職員で共通理解を図りながら、共通実践及び授業改善を図ることができた。また、パワーアップテストの実施により、基礎学力の定着に繋がっている。</p> <p>2 について</p> <p>○ ICT 活用については、全職員が積極的に活用できた。</p> <p>◇ タブレット PC 及び使用アプリの扱い方等についてさらに研修を深めていく必要がある。また、ICT 活用によって、どのような学力向上が期待できるのか検証する必要がある。</p> <p>3 について</p> <p>○ 各学年の発達段階に応じて、計画的に進めることができた。</p> <p>○ 将来の夢や目標について描こうとする力に個人差がある。</p> <p>◇ 地域人材等を積極的に活用し、将来の夢や目標について考えさせる機会を設けたい。</p> <p>◇ キャリアパスポートの活用を促進し、進路意識の向上を図る。</p> <p>4 について</p> <p>○ 英語検定を延べ 143 名が受験 (3 回受験) し、1 年生 26 名、2 年生 26 名、3 年生 36 名が準 2 級～ 5 級に合格。(合格率 62%)</p> <p>○ 漢字検定を述べ 92 名が受験 (3 回受験) し、1 年生 13 名、2 年生 8 名、3 年生 15 名が 2 級～ 5 級に合格。(合格率 39%)</p> <p>◇ 各種検定については、幅広い分野 (数検、社検) を勧めたい。また、検定取得の必要性について、もっと理解させる必要がある。</p>	3.3	3.1	<p>○ 学ぶことの醍醐味を伝え、心に火をつけてもらえたらと願います。</p> <p>○ 基礎学力の定着を数値化すると分かりやすいと考える。</p> <p>○ 県や全国に比べ、まだまだ低い学力の地域なのでサポートは必要だが、子ども達の意識レベルの向上が重要と考える。</p> <p>○ ICT を活用した授業については、多くの生徒が楽しく取り組めたと回答。先生方の積極的な活用がなされているので、生徒たちの可能性を引き出すきっかけになればと考える。今後も継続した活用をお願いしたい。情報豊富な時代、「伸びしろ」がいっぱいあるので勉学等に奮闘して欲しい。</p> <p>○ 将来の夢や目標については、別紙の個別アンケートでは 82 % の生徒が目標を持っているので、各種の情報提供をお願いしたい。</p> <p>○ 漢字検定の受験者は、英語検定の受験者と比べて半数。図書の出し達成の割に受験者が少ないので挑戦して欲しい。</p>

徳 育	重点目標： 心の教育と生徒指導の充実。	1について ○ 全教育課程を通して人権教育の充実を図ることができた。 ○ 道徳科の授業については、全職員で指導に当たるなど実施率100%である。	3.4	3.5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人権教育の充実を図れたことは、全職員で指導した賜物であり、継続的・組織的な取組を望むところです。 ○ いじめ問題は、何気ないことで発生するので、アンテナを高くして見守り、痛みの分かる人情味のある人へと成長できるよう、気配りご指導をお願いしたい。 ○ 道徳・いじめに関しては、表に出さない、表現できないデリケートな部分だけに大人の前では大丈夫な姿しか見せないものです。もしもの時に学校や保護者がどう対応するのか、できるのか、考えておく必要性を感じる。 ○ 不登校生徒への声掛けを諦めずに続けてほしい。 ○ 不登校生徒への対応等、難しい問題だが当事者だけではなく、PTAや地域全体で考えてもよいのではないかと。 ○ 積極的に読書することで読解力が増し、生徒の新聞投稿力を強く感じたので、継続して欲しい。 ○ 次年度も読書の貸出しが増加するよう、継続した指導をお願いしたい。 ○ 視野を広げ将来に備えるために読書がいかに有効か、事例を挙げて伝えていただきたい。 ○ 多くのコンクールや新聞投稿など素晴らしい。各種の賞を受賞していることは、生徒たちの励みになっていると考える。これからも積極的な参加を期待したい。
	手段： 1 全教育課程を通しての人権教育の充実。 2 教育相談、いじめアンケートなどの活用と不登校傾向の生徒に対する支援の充実。 3 読書活動、各種コンクール等への積極的な参加。	2について ○ 毎週「生徒理解」の時間を設定し、全職員で共通理解を図ることができた。 ○ 学校生活アンケートを毎月実施。教育相談も定期的に行うことができた。 ◇ 不登校及び不登校傾向の生徒以外にも支援を必要としている生徒がいるので今後は、さらに組織的な支援体制を作っていく必要がある。 ◇ 現在、いじめは「ゼロ」と認知しているが、生徒からのSOSを見逃さないように全職員でアンテナを高くして気を配っていききたい。			
		3について ○ 年間貸出し目標4,000冊を達成できた。(現在、約4,186冊)宮崎日日新聞「若い目」やこども新聞「学園俳壇・詩壇・歌壇」への投稿に取組、多くの生徒の作品が掲載された。 また、市の「家族の作文」「青少年健全育成標語」において、優秀賞や特別賞を受賞した。			

体 育	<p>重点目標： 体力の向上と健康安全の充実。</p> <p>手段： 1 体力向上プランに基づく体力向上。</p> <p>2 健康管理能力の向上、虫歯治療率・肥満率の改善。</p> <p>3 安全教育、防災教育、避難訓練等の充実、安全意識の高揚と危険回避能力の育成。</p>	<p>1について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 新体力テストの結果を踏まえ、落ち込んでいる体力の要素を向上させるためのトレーニングメニューを作成し、取り組ませることができた。また、体育の準備運動にブラジル体操を取り入れたり、運動領域によっては補強運動を取り入れたりしながら体力向上を図ることができた。 ◇ 次年度も継続して個に応じた体力向上プランを立て、実践させる。 ◇ 保健体育の授業以外で生徒会や保体委員会、部活動と連携した体力の向上や競技力の向上に努める。 ◇ 全職員で日頃からどのような場面でも立腰の定着が図られるよう指導を徹底していく。 	3.2	3.0	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の体力向上のための新たなメニューに取組み目標達成しているようです。継続して体力・健康保持の取組を期待したい。 ○ 虫歯・肥満予防は、家庭と個別指導との連携で100%達成をめざしてほしい。 ○ まずは体力、体力=気力とを感じる。 ○ 体力向上については、数値的な目標があるともっといいと考える。 ○ 我が子が通っていた時と比べると、体力・虫歯治療率が下がっているように感じる。各家庭への啓発と個別指導を粘り強くお願いしたい。 ○ これからも積極的に自分の身は自分で守る学習を取り入れて欲しい。 ○ 災害は、何時、何処で発生するか不明。毎年度の防災避難訓練をお願いしたい。 ○ 虫歯の治療率・肥満率の改善については、保護者の協力が不可欠である。繰返し、協力を求めて欲しい。
		<p>2について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 虫歯治療率が82.2%、肥満度12.9%であった。 ◇ 今後も養護教諭を中心に個別指導や家庭との連携を図り、虫歯治療率100%、肥満度10%以下をめざす。 			
		<p>3について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 本年度は、火災・地震・災害・不審者を想定した避難訓練を計4回実施した。災害時引渡訓練では、地区ごとに色分けした「ネームプレート」を作製し、車に提示したり、学校付近及び校内への車の進入口を分けたり一方通行にするなど、工夫改善を加えたことで、大きな混乱もなく実施できた。 			

食 育	重点目標： 食育の充実。	1について ○ 朝食摂取率は93.0%(平日)・84.0%(休日)で、完全摂取とは ならなかった。 ◇ 保健主事からの「保健だより」の配付や個別指導等を通して、 今後も朝食の完全摂取をめざす。	3.5	3.4	○ 朝食摂取は、一日の健康の源であり、 家庭と共に「保健だより」配布や個別指 導等により、摂取率100%をお願いした い。 ○ 朝食の質にも関心を持たせて欲しい。 (朝にたんぱく質を多く取るなど。) ○ 朝食を摂取できなかった原因を把握し、 改善を図ってほしい。 ○ 家族団らんの大切さ、食を通しての喜 びや感謝について話し合う良い機会と考 える。今後も継続して取組んで欲しい。 ○ 食育に対する考えが、SDGsで育成さ れてきているのだと思います。 ○ 残食率0は素晴らしい。
	手段： 1 朝食の完全摂取。	2について ○ 弁当の日は、生徒に取組み方のコースを選択させ、2回実施 した。また、給食感謝週間を設定・実施できた。 ◇ 次年度も年間2回の弁当の日を主体的、計画的に実施できる ように家庭と連携していく。 ◇ 来年度も外部講師と連携して、食育を推進する。			
	2 「弁当の日」の取組の充実 と感謝の心や豊かな食習慣の 育成。	3について ○ 残食率は、ほぼ0で目標としていた残食率5%以下を達成で きた。			
そ の 他	重点目標： 保護者や地域、野尻小及び栗 須小との連携の推進。	1について ○ 小中合同の研修会等を概ね計画通り実施できた。 ◇ 今後も小中合同研修会等の充実を図りながら、簡略化できる ものは改善を図りたい。	2.5	2.7	○ 昨年度までは、コロナ禍が続く中で学 校関係者として学校行事に参加できず、 生徒と直接会話する機会もなく、寂しく 感じた1年でしたが、5月にコロナが5 類に引き下げられたことで、学校行事も 少しずつ元の形に戻り、生徒の活動の様 子を拝見できたことに嬉しさを感じます。 活動の様子を見る限り、良好な人間関係 や学校環境を感じます。
	手段： 1 小中合同による研修会等の 充実。	2について ○ 学校だよりや学級通信等の定期的な発行、ホームページの更 新を通して、積極的に外部への情報発信ができた。 ◇ 今後も積極的に学校情報公開を進めていく。			
	2 学校の情報発信。	3について ○ 目標の月当たりの時間外勤務時間80時間以上の職員ゼロを達 成できたが、45時間以上の職員35%以下とはならなかった。 ◇ 今後も働き方改革を推進すると共に、45時間以上の職員35 %以下をめざす。			
3 効率的な業務の推進を図る。					

次年度の方向 性についての 校長所見	本年度5月に新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられたことにより、保護者をはじめ、地域の皆様や関係諸機関のご支援、ご協力をいただきながら学校行事等少しずつではあるが元の形に戻りつつある。しかしながら、働き方改革の推進にも伴い、完全に元の形に戻すにはもう少し時間がかかるようだ。そんな中、野尻中学校の教育目標及び学校経営ビジョンの実現に向けて教育活動を展開できたことは評価できると考える。次年度は、さらに充実した取組ができるように本校の教育的課題の解決に向けて努めたい。特に、学力向上を図るための授業改善、思いやりの心を育みいじめや不登校0に向けた具体的な取組を進めていきたい。
--------------------------	--